

人材フレームワークの今後の利活用に向けて



国家サイバー統括室
National Cybersecurity Office

令和8年3月27日

内閣官房
国家サイバー統括室
人材政策班

人材フレームワークの普及により、人材確保・育成・活躍が進む姿の実現に向けて 1

- 人材フレームワークを軸に、求人情報、教育・訓練、資格試験・演習等の情報を関連付けて、我が国における効率的・効果的なサイバーセキュリティ人材の確保・育成を図る。(サイバーセキュリティ戦略)
- その実現に向けて、当面は、事業者等の協力の下、フレームワークや手引きの実践による効果検証を蓄積した上で、ユースケースも踏まえた拡大方策を講じていくなど、段階的な普及方策を検討。

活用場面

体制整備

採用・配置

教育・訓練

キャリア形成

試行段階

(ユースケースの発掘)

- 手引き書①の実践
- 中小企業

- 手引き書②の実践
- 人材サービス事業者 (採用)

- 手引き書③の実践
- 教育機関
- 教育・訓練事業者

- 手引き書④の実践
- 学生
- 専門人材

普及段階

(拡大方策の実施)

利活用の一層の促進に向けて、ユースケースの蓄積を踏まえたフレームワーク等の見直しを行うとともに、必要な仕組みの検討を含め、官民連携の下で取組を推進

目指す姿

限られた人員の中で担うべき役割・タスクを明確化し、選択と集中による効率的なスキル向上により、サイバーセキュリティ対策を強化

組織が求める人材の定義をフレームワークに沿って理解可能なものとする事で、採用や配置時のミスマッチを解消

フレームワークに沿って個人や社会のニーズが可視化されることにより、要請に沿った教育・訓練メニューの強化・提供

社会ニーズの可視化により、CS人材として目指すべきキャリアが明確化され、自身が保有するスキル・知識とのギャップ分析等により、積極的・継続的なスキル向上を実施

手引き書を踏まえたフレームワーク活用のアプローチ

■場面ごとの活用推進アプローチ

- 手引き書を踏まえたフレームワーク活用によるさらなるユースケースの発掘

体制整備

中小企業等の限られた体制におけるFW活用の試行

採用配置

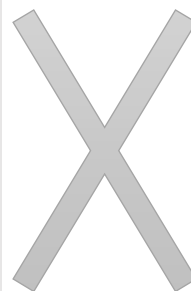
人材サービス事業者等と連携したFWに基づいた求人の試行

教育訓練

既存の訓練等についてフレームワークとの関連付け推進

キャリア形成

人材向け手引きに示すキャリア事例の拡充



■セクター別の活用推進アプローチ

- 各種サイバーセキュリティ政策と整合を図りながら産官学様々な分野・領域で活用を推進

政府機関

規定の参照関係の確立や、FWを踏まえた既存の人材関係計画の見直し

民間

体制整備や人材定義への活用

普及啓発

他のサイバーセキュリティ施策とも連携した取り組み

環境整備

サイバーセキュリティ人材のスキル・知識の可視化に必要な仕組みの検討

フレームワークの実践状況を踏まえ、検討会において継続的な議論・検討を行うことで、フレームワークの改善やさらなる拡大方策の実施による普及推進を図る

III. 目的達成のための施策

3. 我が国のサイバー対応能力を支える人材・技術に係るエコシステム形成

(1) 効率的・効果的な人材の育成・確保

経済社会のデジタル化が進展する中で、サイバー攻撃は一層複雑化・巧妙化の一途を辿り、あらゆる分野でサイバーセキュリティを担う人材の確保・育成が急務となっている。このため、人材フレームワークを軸に、様々な施策を有機的に連携させながら効率的・効果的な人材育成を進める。

① 人材フレームワークの整備と効果的な運用

サイバーセキュリティ分野における人材の確保・育成を効果的に推進するためには、多様な職務ごとに、必要な知識・スキル等を体系的に整理した人材フレームワークを速やかに策定し、社会の様々な場面で活用されることが重要である。これにより、企業や行政機関、大学・教育機関等がサイバーセキュリティ人材像の共通理解の下、より効果的かつ計画的な育成や採用等が可能となる。

フレームワーク策定に当たっては、我が国の官民における対処体制を念頭に実用性の高い内容とした上で、**国内外の既存フレームワークや職業分類等との整合を図る**ことで、人材が国内外を問わず活躍できる環境の整備を目指す。

フレームワークの整備後は、その人材定義に基づき、**人材の需要・供給状況や教育・訓練機関の情報を網羅的かつ一元的に可視化**し、国内の人材動向を俯瞰できる仕組みづくりのために、官民協働して取り組む。これにより、**キャリアパスを可視化**し、人材を活用しようとする様々な組織における採用・配置等の場面を通じ、人材のマッチングやキャリア形成支援の質と効果を一層向上させていく。

様々な主体によって行われる**教育・訓練について、フレームワークとの関連付けを強化**する。具体的には、**資格試験の合格や実践的演習の修了等といった成果と、フレームワークにおける人材像・レベルとの関連付け**を推進し、参加者のスキルの可視化を促進できる仕組みとするとともに、教育・訓練のカリキュラム設計にも活用する。政府においては、**政府デジタル人材のスキル認定制度と連携**を図るなど、フレームワークを基盤として適切な評価制度の整備や人材の適正配置を促進する。

これらの取組を通じて、多様な人材が社会で必要とされる場面で力を発揮する環境を整えることで、様々な現場で得られた知見や経験が人材を通じて有機的に循環することになり、社会全体のセキュリティ水準の持続的強化にもつながる。